
メリーポピンズ東武練馬ルーム

令和5（2023）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援していきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげて教える人 より良い保育を目指して創意工夫していける人</p> <p>・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。</p>

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	ひとつの課題に向けて職員間で連携がとれているなど、コミュニケーションの良さが明るい雰囲気醸成に結び付いています
	内容	職員自己評価結果には人間関係の良さを評価する声が多く見られ、職員間のコミュニケーションの良さが活発で明るい職場の雰囲気を醸成しています。施設長は園会議などにおいて職員誰もが発言しやすいように配慮して職員の意識を統一するなど、ひとつの目標に向けてリーダーシップを発揮しています。その成果のひとつに降園時における保護者対応があり、職員が一体となった取り組みにより満足度が向上しました。また手厚い休暇制度及び柔軟なシフト作成など、働きやすさに配慮していることも職員間の良好な人間関係を育む要因となっています。
2	タイトル	食事はバイキング形式を採用して楽しく食べられる環境づくりを行い、自分たちで育てた野菜でクッキングを行うなどの体験をしています
	内容	食事は友だちと「楽しく、食べたいときに、食べたい場所で食べる」を基本としてバイキング形式を採用しており、子どもたちは自分で食べたい量を盛り付けて完食しています。給食には系列園の畑で育て収穫した野菜やどろんこ会グループの水田で収穫した米を提供し、健康な体づくりを支援しています。食育活動では0歳児クラスから野菜に触れ、皮むきなどの手伝いからクッキングまで年齢に合わせた食育を行っています。職員が目前でさばいた魚を食べるなど、普段はできない体験を通して食について学んでいます。
3	タイトル	毎日の散歩、畑仕事、毎月の遠足、銭湯でお風呂の日、商店街ツアーなど多様な戸外活動を取り入れて健康な体づくりを支援しています
	内容	外に出かけられる天候の日は、近隣の公園への散歩を日課にしており、戸外で体を十分に動かせる時間を確保しています。系列園にある畑には園バスを利用して出かけ、野菜の植え付けや栽培、収穫を「仕事」として取り組んでいます。0歳児クラスから毎月1回遠足の日を設けており、公園で遊び、お弁当を食べるなどいつもと違う環境の中で楽しさを満喫しています。「銭湯でお風呂の日」や商店街ツアーでは、近隣の人たちと触れ合いながら、公共の場所でのマナーを教えるなど、多様な人との関わりの中で成長していける環境が整っています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	多彩な子育て支援事業を行っていますが、広報の在り方などを工夫することで事業の定着を目指すことを期待します
	内容	園は「子育て支援拠点」として多彩な取り組みを行っています。保護者同士が話し合って料理を作る「自然食堂」及び制作等を楽しむ「芸術学校」や子育てサロンなど、ユニークな企画は他の園では見られない積極的な取り組みとして評価されます。しかし、参加者が伸びていないのが課題となっています。背景には様々な要因が考えられるものの、広報の在り方や子育て中の保護者へのアプローチなどを工夫することで集客に結び付く可能性があるでしょう。独創的な企画を生かす上で今後のチャレンジを期待します。
2	タイトル	どろんこ会グループとしてしっかりとした人事制度が確立されていますが、職員の理解促進に向けてさらなる工夫と取り組みが期待されます
	内容	どろんこ会グループではしっかりとした人事制度のもと、職員のキャリアパスなどについても明確な道筋を示しています。また研修制度も充実しており、毎年行われる「意向調査」を通じて職員の状況を把握した上で異動などが行われています。しかし、職員自己評価結果からは法人の意図するところ、中でもキャリアパスについて伝わり切れていない結果が見られます。育成計画と合わせて職員の理解促進に向けた、さらなる取り組みが期待されます。
3	タイトル	静かに過ごす空間と活発に遊べる空間を分けるなどの工夫は見られますが、園内環境のさらなる改善に向けた取り組みが期待されます
	内容	施設長は園全体を「大きなひとつの家」と考えており、園内のどこで過ごしても居心地の良い環境となることを目指しています。静かに過ごす空間と活発に遊べる空間の分離や延長保育時の保育室の移動など、子どもたちだけでなく職員にとってもゆったりと保育に取り組めるような工夫があります。しかし、子どもたちがさらに遊ばせたい環境づくりや遊具の種類や数、絵本の種類など、園環境にはまだ多少の課題が見られます。子どもたちにとってさらに過ごしやすい「家」を目指して保育環境の向上に取り組むことを期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている
タイトル①	園では保護者からの意見を受けて、降園時の対応及びきめ細かな配慮に取り組んでいます	
内容①	<p>どろんこ会グループが毎年実施する保護者アンケートで、降園時における園の対応への意見が多く寄せられたことをきっかけに、園では降園時対策に取り組みました。お迎えが集中する10分間に、いかに保護者に「待たされている」という思いを抱かせないか、少しでも子どもの様子を伝えるにはどうしたらいいかなど、園会議の場などで真剣に話し合いました。お迎えが重なる中でも保護者への積極的な声かけや園情報の開示など、試行錯誤を繰り返しながらも全職員が一体となって改善に努めています。その結果、感謝の声が多く聞かれるようになりました。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	保育園は「大きな家」として、個々の成長、発達に合わせて保育を提供しています	
内容②	<p>保育園を「大きな家」と捉え、家庭と同じように子ども一人ひとりの発達を全職員で把握して、成長に合わせた支援を行っています。0、1歳児クラスと2～5歳児クラスが毎日異年齢保育を取り入れており、クラス担任だけでなく全職員で子ども全員の成長、発達を把握し、個々に合わせた支援を行うことで、子どもたちの健やかな成長、発達につなげています。日々の子どもの微細な変化についても朝礼や昼礼で共有しています。保護者対応においても園全体で共有するなど、保護者に寄り添いながら共に子育てに関われる関係づくりに努めています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル③	行事では子どもたちが主体性を持って取り組めるよう得意なことを盛り込んでいます	
内容③	<p>子どもが自信を持って取り組めるよう、行事には日々の保育の中で得意なことを盛り込み、主体的に最後までやり遂げられるように支援しています。運動会では体操で取り組んでいる大縄跳びや跳び箱を競技に盛り込みました。何回跳ぶか、跳び箱は何段にするかは子ども自身で決めています。行事では5歳児クラスが中心となって「何をしたいか」を話し合い、自分たちで決めていく過程を大切にしています。友達と協力しながらひとつの事を決めていくことで、相手の立場を考え、自分の気持ちを押し付けすぎないなど、集団活動の中で成長しています。</p>	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	理念及び目標が明示され、様々な機会を通して職員、保護者への周知も図られています どんご会グループとして目指すべき理念及び保育目標は明確にされており、様々な機会を捉えて職員への周知が図られています。年に1回開催される全体研修において代表から目指すべき理念や保育目標を伝えるとともに、新年度を前に職員自ら園の行事を決める策定会議や各種マニュアルの読み合わせを行うキックオフミーティング、新人職員を対象とするOJT研修などの場においても職員間で共有が図られています。ホームページや入園のしおりに明記し玄関に掲示するとともに、保護者懇談会などにおいて保護者への周知も図られています。 施設長は園の進むべき方向性を明確に示しながら、きめ細かく職員をサポートしています 施設長は各現場から吸い上げた声を、より働きやすい環境づくりに生かすことを目指すとともに、毎年12月に運営本部Missionとして発表される施策を基に園の事業計画を策定し、職員に目指すべき方向性を示しています。また、どんご会グループが理念とする「子ども主体の保育」への理解が深まっていないと思われる職員へアドバイスを行うなど、施設長の意図を明確にしながら園運営に取り組んでいます。リーダー層にはスタッフ育成などの役割に対する自覚を促すとともに、新卒スタッフには保育の基本から丁寧に指導しています。 重要案件に対しては組織的に意思決定され、職員及び保護者への徹底が図られています 重要案件に関する意思決定は組織的に行われており、日々の昼礼及び月1回の園会議などを通して職員に周知されています。決定事項については決定に至るプロセスとあわせて会議議事録の回覧及び口頭による伝達で共有が図られています。また、案件によっては子どもの登園状況や体調などを職員間で共有するシッターノートで伝達されており、会議議事録に関しては押印による確認が義務付けられています。保護者に対する重要案件の伝達は基本的に連絡帳アプリを使うとともに、時には臨時のおたよりで周知を図るなど、理解を深める体制が整えられています。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>アンケートや面談、意向調査などを通して利用者及び職員のニーズの把握に努めています</p> <p>毎年、どろんこ会グループ全体で利用者アンケートを実施し、課題の共有及び保育内容などの改善に取り組んでいます。個人面談は利用者の希望に合わせて随時実施できる体制を整えており、クラスごとに分かれて行われる保護者懇談会とあわせて利用者のニーズを把握する機会としています。職員の意向を確認する機会として毎年9月に「意向調査」が行われます。来年度に向けて退職及び異動、処遇などについてすべての職員から希望を聞き取るもので、適切な人員配置などにつなげています。施設長は各会議も職員の意向を把握する重要な機会と捉えています。</p> <p>地域の福祉ニーズをしっかりと捉えることで、「地域から選ばれる園」を目指しています</p> <p>施設長は保育園が淘汰される時代を迎えつつある現実を冷静に受け止めており、地域から選ばれる園にするための施策を法人内研修及び勉強会などを通して学ぶと同時に、園会議の中で職員と課題を共有しながら取り組みを進めています。また、施設長はどろんこ会グループが掲げる理念及び方針を忠実に実行し、保育現場に落とし込むことが保護者の満足度向上につながり、結果的に選ばれる園になるとしています。一方、職員自己評価結果に園の立地条件や地域性を加味した園運営を求める声もあり、さらに独自性を発揮しアピールしていくことが期待されます。</p> <p>3か年計画を含む事業計画を策定し目標達成に向けた計画的な取り組みがなされています</p> <p>どろんこ会グループの運営本部が目指す方向性を基に園の3か年計画が策定され、目標達成に向けた単年度の事業計画に落とし込まれています。園運営に必要な経費は園の状況に合わせて事業計画に盛り込み、事業計画書を基に年間指導計画、月案、週案を策定するなど円滑な園運営を目指しています。年間保育計画は4期に分けて振り返りが行われ、年4回の幼児及び乳児会議、月1回の園会議においても計画の進捗状況を確認しています。また、正職員は目標管理制度(MBO)を基に各自役割を確認し、目標達成に向けた取り組みが行われています。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

専門職として守るべき法や倫理は周知が徹底され、定期的な人権チェックも行っています

どろんこ会グループでは全職員に専門職として守るべきルールなどを明記した「保育品質マニュアル」を配付するとともに、年2回「児童、保護者の人権に関するチェックリスト」を基に自らの言動を振り返るなど、子ども及び保護者の尊厳を守る保育の実践を目指しています。また、職員は毎月模範社員の行動を見習いながら自らを振り返る「コンピテンシー」の提出を求められており、専門職としてのスキルアップの機会としています。園会議などの会議では職員同士がお互いの言動で気になった点を話し合うなど、保育品質の向上につなげています。

利用者の意向及び苦情を把握する仕組み及び虐待防止に向けた対策が整えられています

利用者の苦情及び意見、提案などに関しては入園時に説明するとともに、連絡先などを記載したファイルを用意していつでも確認できるように配慮しています。苦情や意見は法人の園担当部課長と即時共有するとともに「ご意見、ご提案シート」を作成して職員に押印を義務付け、解決、改善に向けた話し合いが行われています。第三者委員の存在も告知しています。新年度のキックオフ研修及び虐待防止研修において子どもの人権について確認するとともに、虐待対策マニュアルで虐待の定義を明示し、本部、関係機関への連絡、通報手順も明確になっています。

「子育て支援拠点」と位置づけ、活発な活動を通して地域福祉の充実に貢献しています

「園は地域の人たちによって支えられている」と考える施設長は様々な手段で情報を伝えることで園の透明性を高めるとともに、活発な活動、地域各機関との連携などを通して子育てをはじめとする地域福祉の充実に貢献しています。園が食材やレシピを提供して地域の保護者同士が話し合って料理を作る「自然食堂」や「子育てサロン」など園独自のユニークな企画から、地域貢献にける意欲の高さがうかがえます。施設長は学区内の幼保小連絡協議会に参加し、入学目前の子どもの保育に生かしています。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(00000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(0000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>「命に関わる事故の防止」を最優先に、様々なケースを想定した訓練を行っています</p> <p>施設長は事故や災害に関わらず子どもの命に関わるアクシデントの予防と防止を最優先に、水の事故に備えた避難訓練をはじめ火災などに対する避難訓練、不審者侵入に備える訓練など様々なケースを想定した訓練を行っています。近年問題になっている見失い・置き去り事故に対しては特に注意を払っており、戸外活動時には人数確認リーダーを定めて2名以上の職員によるダブルチェックを徹底しています。万が一事故やけがなどが発生した場合は本部への報・連・相を迅速に行うと同時に、全職員が原因などを話し合い改善策につなげています。</p> <p>重大事故を想定したクライシスマニュアルを作成し、訓練を通して周知が図られています</p> <p>どろんこ会グループとして園児に関わる重大事故を想定したクライシスマニュアルを策定しており、園では「事故発生時対応フローチャート」に基づいた訓練が行われています。また、法人では現在、これをさらに充実させた事業継続計画を策定中であり、災害対策の強化を目指しています。通院対応を要する園児のけがや見失いなどの事故が発生した場合は、速やかな対応とあわせて事故記録簿に記録して本部と共有する体制が整えられています。事故記録簿の内容は職員全員が押印して確認し、原因究明及び予防策、改善策について話し合いを行っています。</p> <p>情報管理は適切であり、セキュリティーに対する職員の意識向上にも取り組んでいます</p> <p>入園児情報など機密性の高い情報は管理するPCを限定するとともに、アクセス権限を設けて厳重に管理されています。また、USBメモリなどの外部記憶媒体の使用は一切禁止されており、情報は職員共有のフォルダに集約されています。その他個人情報を含む重要書類は事務所内の鍵付き書庫に保管されており、鍵は施設長が管理しています。年2回全職員を対象に「情報セキュリティチェック」を実施し、情報管理に対する意識向上が図られています。本部と園は共有する専用サーバーで情報のやり取りが行われており、機密性にも配慮されています。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

職員の採用に関する工夫が見られるとともに定着に向けた体制も整えられています

園では積極的に実習生を受け入れ、新卒の採用に結び付ける努力をしています。インセンティブを伴う「職員紹介制度」も一定の成果を上げています。業界全体の課題となっている離職防止に関しては、新年度を前に「意向調査」を行って職員の意向や園の状況を踏まえた異動及び適切な配属につなげています。また、目標の達成に合わせて賞与が加算される評価制度も職員の意欲向上に結び付いているとともに、職員自己評価結果に見るように、連携のとれた良好な人間関係も職員の定着を促す要因となっています。

人事制度を整え育成に取り組んでいますが、職員の理解を深める努力が期待されます

どろんこ会グループとしてしっかりとした人事制度が整えられ、職員のキャリアパスに向けた指針も明確です。評価の流れ及び報酬制度と連動した等級制度によるステップアップの道筋も分かりやすく明示されています。また育成に向けた研修制度とともに目標管理制度(MBO)を使った個人及び組織目標も設定され、年2回の施設長面談などを通して一人ひとりの育成計画につなげています。しかし、職員自己評価結果からキャリアパスへの理解が深まっていない傾向にあり、育成計画の「見える化」に向けたさらなる工夫を期待します。

チーム力及び組織力の向上を目指して、働きやすい環境づくりに取り組んでいます

チーム力は何よりも働きやすい職場環境から生まれます。産休や育休、介護休、傷病休はもとより、希望休もできるだけ反映させ、1時間の休憩が取れるようにローテーションを組むなど、安心して働ける環境を整えています。園会議において研修の成果を発表する機会を設けて情報を共有するとともに、活発に意見を出し合える雰囲気を作ることで一人ひとりのモチベーションを高め、組織力の向上にもつなげています。年2回、本部からの補助金が支給される「懇親会制度」を使うなど、施設長は休憩時間にも会話が弾む「気持ちの良い職場」を目指しています。

カテゴリ7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>園では降園時における保護者への対応に関する改善を2022年度の目標としました。背景には保護者から「日々の保育の状況を教えてくれない」という意見が寄せられたことがあります。園としては決して保護者への対応を疎かにしたわけでもありませんが、一定の時間にお迎えが集中することから「待たされる」と感じる保護者が多くいたことは否めません。そこで園では園会議などで話し合いを行い、まず取り組んだのが保護者に対する積極的な「声かけ」です。例えば、お迎え時の子どもの様子や状況を具体的に伝えて「待たされ感」の軽減を図りました。また、保護者には畑作業の様子を記録した写真を見せたり、園での様々な活動が書かれた「壁書き」と称する壁新聞を読んでもらうなど、時間の許す限り園から発信する情報に触れてもらう機会を増やすようにしました。この活動には全ての職員が意識して取り組んだ結果、どろんこ会グループが毎年実施している利用者アンケートでの不満や苦情の声が大幅に減少しました。課題として捉えた主任は職員の意識も大きく変わったとの実感をしており、引き続き降園時の保護者対応の改善に取り組んでいく予定です。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>園の降園時間は17時30分から18時までですが、特に17時50分から18時までの10分間にお迎えが集中する傾向にあります。この間全ての保護者に十分な対応を行うことは難しく、不満や意見となって顕在化しました。しかし、集中するから「仕方がない」と考えるのではなく、少しでも保護者の思いに応えるべく様々な試みを行いました。声かけや子どもの様子を見せたりすることも一定の効果は見られますが、時差降園への協力を呼びかけ、面談ができることも伝えて保護者の声を聞く機会も設けるなど、積極的に園としての配慮をアピールすることにも努めました。また、きょうだいの多い保護者には部屋に入って子どもたちの様子を見せたり試みも行いました。その結果、降園時における対応に対する保護者の苦情や声は大幅に減り、職員の意識にも変化が見られました。登降園時は保護者とのコミュニケーションを図る貴重な機会ですが、短時間に集中することから園にとっては難しい対応を迫られる時間でもあります。保護者の声から発した改善への動きとは言え、話し合いを重ねながら自ら解決の糸口を見つけた職員の取り組みは評価できます。今後も改善を進めながら取り組みの継続が期待されます。</p>	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>日々の保育の中で子どもたちに自主的に活動を選択してもらい、結果的に考える力やコミュニケーション能力の向上を図ることを2022年度の目標としました。これまでは活動の大部分を大人主体で決めていたという背景があります。新任の施設長に代わって目標を設定した主任は「それでは子どもの主体性が育たないのではないか」との危機感を持ちました。「子ども主体」あるいは子どもと大人がともに学び合う「共主体」を意識しながら、子どもの「やってみたい」を大切にすべきではないかと、まずは子どもたちに行きたい公園を選択してもらうことから始めました。降園を前に毎日行われる「帰りの会」で明日行きたい公園を話し合っ決めて、翌日も子どもたちの考えが変わった場合は理由も含めて担当の保育士に話を伝え、改めて行きたい公園を選びました。職員はこの取り組みを通して子どもの「考える力」及び「コミュニケーション能力」の向上につながっていること実感すると同時に、自主性を育む上でどんな場面でも子どもと向き合い、子どもの声に耳を傾けることの大切さを知りました。また、この取り組みは今後も継続していくこととしています。</p>	
<p>目標の設定と取り組み</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>子どもたちが話し合っ自主的に活動を決めるというこの取り組みは、子どもたちが常に心の内に持っている「なぜ？」という疑問を受けて始まりました。子どもたちばかりかスタッフの意識にも大きな変化をもたらしました。主任は、何よりも子ども自身が考え、行動する力が少しずつ付き始めていると感じています。また、この取り組みを全職員が共有することで、子どもが主体となって活動するための環境づくりへの理解が深まるとともに、スタッフが子どもとの距離感を改めて考えるきっかけとなりました。また、目的を持って子どもたちを見守ることの大切さも改めて感じるなど、スタッフ一人ひとりの気づきにもつながりました。取り組みの成果や課題などは毎日の屋礼及び園会議において共有が図られており、話し合われた内容は次の活動に生かされています。子どもたちが考える力を育み、コミュニケーション力の向上を図るうえで、粘り強い取り組みと持続性、行動力が求められる取り組みですが、子どもの主体性を常に意識しながら今後も継続していくことを決めています。</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
サブカテゴリー1の講評		
<p>ホームページと入園のしおりには園の情報を詳しく記載して情報発信をしています</p> <p>園の保育や行事の様子などを入園希望者や地域の人へ伝えていけるように、ホームページやブログを活用して情報発信をしています。日々の活動を写真を添えて紹介することで、見た目にも分かりやすい内容になっています。入園のしおりは園見学者に配布し、運営理念、子育て目標に加えて裸足保育、雑巾がけ、畑仕事、異年齢保育、銭湯でお風呂の日などの特徴的な保育内容についても丁寧に伝えています。当園の保育について十分に理解をした上で入園を希望してもらえるように努めています。</p> <p>区と定期的に情報交換を行い連携をとりながら、地域の子育て家庭の支援に努めています</p> <p>区のホームページにある「私立・公設民営保育園一覧」には当園のホームページへのリンクが貼られており、入園希望者が必要とする情報を入手しやすくなっています。このことにより、他園と比較検討しながら入園先を検討することもでき、利用者の利便性にも配慮しています。夏祭りをはじめ園で実施するイベントについては、近隣の商店街にお知らせの掲示を依頼するなど、地域の人に園についての興味を喚起させ、足を運んでもらえるように働きかけを行っています。</p> <p>園見学はできる限り多くの人に保育環境や職員との関わりを見てもらえる機会にしています</p> <p>園見学の際には希望者の要望を聞いて日程調整を行い、できる限り多くの家庭に実際の保育の様子を見てもらえるようにしています。見学者には保育方針、目標など園が目指す保育の姿勢、保育内容について、入園のしおりを用いながら説明しています。職員との関わりを見てもらえることで、大人主導で保育を提供するのではなく、場面場面で子どもの気持ちや意思を確認していくという当園の保育の基本姿勢を理解してもらえらる機会としています。見学者の質問にも丁寧に対応することで、入園後の不安を払拭できるように努めています。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入所前面談では入園のしおり及び重要事項説明書に沿って、丁寧に説明しています</p> <p>入所前面談では、入園のしおりに沿って本園の保育方針、目標、保育内容など保育全般に関することや、利用料金、延長保育、登園の際に医師の診断書が必要な疾病、園のルールなどについて説明を行っています。面談の最後には重要事項説明書の内容について説明漏れがないかをチェックしながら再度確認しています。面談は「入園前面談表」を用いて既往歴及び発育について、食事、アレルギーの有無、発達全般など、入園までの家庭状況を把握して職員間で共有し、一人ひとりに合わせた支援を行い、どの職員であっても同じ対応が取れるようにしています。</p> <p>保護者の意向を聞き取りながら新生活がスムーズに送れるように支援体制を整えています</p> <p>入園前面談では保護者の意向や要望、配慮してほしい点について聞き取り、子どもが環境や周囲の大人にスムーズに馴染んでいけるように配慮しています。慣れ保育は必須ではありませんが、0歳児や集団生活が初めての子どもには推奨しています。少しずつ新しい環境に馴染んでいくことで子どもの負担軽減につながるように、保護者と相談しながら期間などを決めていきます。入園直後は連絡帳だけでなく口頭でも子どもの様子を丁寧に伝えるなど、保護者に安心して預けてもらえるよう取り組み、信頼関係の構築につなげています。</p> <p>転園や卒園にあたっては保護者の不安も払拭できるように、面談などを実施しています</p> <p>転園や卒園する子どもには保護者が不安を感じることがないように、気持ちに寄り添いながら新しい環境に移れるように支援しています。希望に応じて面談を実施し、子どもが成長している姿を共有するとともに、今後成長していくであろう未来について希望を持てるように、ゆっくりと話をしています。また、保護者の同意を得た上で転園先に現在の発達状況などについて情報提供を行い、新しい環境にスムーズに慣れていけるように支援しています。保護者にも何かあったらいつでも相談できることを伝えるなど、支援が継続するように働きかけています。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
子どもの成長記録については所定の様式に定期的に記録し、職員間で共有しています 入園後の子どもの日々の様子について、保育日誌に子どもの姿と保育士の感想を記入しています。0～2歳児では、このような記録を振り返り、子ども一人ひとりの様子に合った個別計画を立案し、成長・発達に応じた支援を職員間で統一できるように努めています。個別記録、個別省察にて一人ひとりの成長・発達段階を全職員で把握し、次月案の立案につなげています。エピソード記録も取り入れたことで、子どもの表情や行動についての考察ができるようになり、子どもの個性をより尊重した保育の提供につながっています。		
全体的な計画を踏まえて年間指導計画、月案などを計画して連動性を持たせています 全体的な計画は毎年2月の策定会議にて全職員で園目標を決める話し合いを設け、次年度目標としたい保育内容を盛り込んでいます。全体的な計画は子どもの姿を反映させながら毎年修正を加え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に近づけていけるように立案しています。年間指導計画は年度の振り返りを踏まえて、前担任と次年度の担任が子どもに体験してほしい、伸ばしていきたい内容を落とし込んでいます。月案、週案はクラス担当者が次案の立案時に省察を踏まえることで、連続した保育を提供できるようにしています。		
園会議、乳児・幼児会議など各種会議を定期的実施して子どもの情報を共有しています 園会議、乳児・幼児会議では、気になる子どもについての報告及び一人ひとりに合わせた支援方法について考察し、職員間で情報を共有しています。毎日の朝礼では欠席や体調不良の子どもについて共有し、昼礼では保育中に気になる子どもについてエピソード記録も交えて対応を検討し、クラス担当者以外の職員も必要に応じて助け合えるようにしています。その日のトラブル、喧嘩については昼礼ですぐに事例を用いて検証を行うなど、園全体で関わり方や対応について共有する体制が整っています。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>個人情報の取り扱いについては入園時に保護者に説明し、同意確認を行っています</p> <p>個人情報の取り扱いについて、保護者には入園時に「どろんこ会グループ個人情報保護方針」を基に情報収集の目的、情報の種類、利用、第三者への情報提供、情報開示などの説明を行っています。また、緊急時に警察署、行政、医療機関などへ子どもや保護者の情報を開示する必要がある場合には、必要最低限にとどめることを基本姿勢としています。説明後にはWeb上のフォームにて保護者の同意確認を行っています。写真、動画の園内における掲示及びホームページなど外部への使用についても、保護者が同意した範囲で行っています。</p> <p>子どもの羞恥心及び尊厳に配慮するとともに、一人ひとりの個性を大切にしています</p> <p>トイレの失敗などで着替えが必要な時には、他の子どもから見えない場所に誘導しています。また、5歳児クラスではプライベートゾーンの話とともに性教育を実施して自分の体は自分で守ることの必要性を伝えています。当園の性教育は生まれるまでの過程、意味、誰もが愛されて生まれてきたこと、一人ひとりがかげがえのない存在であり、他者も同様であることから周りの人たちも大切にすることなどを絵本を活用して伝えています。保育の中では、子どもが興味を示したことは否定をせずに見守り、気持ちに寄り添う姿勢を大切にしています。</p> <p>年2回人権チェックを行うとともに保護者との連携を適切な保育につなげています</p> <p>毎年2回「保育品質マニュアル」をもとに不適切保育につながる支援がないかを振り返る人権チェックを行っており、どのような行為が虐待につながるのか、子どもの尊厳を守る注意の仕方はどうあるべきか、そして適切な言葉遣いなどについて学んでいます。また、育つ、生きる、参加する、守られるという子どもが持つべき4つの権利が奪われていないかを常に考えながら保育を提供していると同時に、保護者との話し合いを通して可能な限りその価値観及び生活習慣に配慮した対応を行うことで、家庭での子どもの接し方についての共有につなげています。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>「保育品質マニュアル」の読み合わせを毎年実施して業務の標準化を図っています</p> <p>どろんこ会グループ共通の「保育運営マニュアル」は各園に1部ずつ設置されており、マニュアルに沿って職員全員が共通の対応が取れる体制を整えています。さらに全職員には「保育品質マニュアル」が配付されており、園運営及び保育全般についての共通理解のもと、日々の業務の中で活用しています。これらのマニュアルは毎年4月に改訂をしており、見直し部分についてはその都度職員に周知するとともに、毎年読み合わせを行い業務の標準化を図っています。</p> <p>目指す保育について職員全員が企画会議で発表するなど意欲向上に取り組んでいます</p> <p>年度末の策定会議では、全職員が子どもたちの成長、発達を踏まえた上で、子どもたちにとってどのような経験が必要であり、日々の取り組みでは何が大切であるかを検討しています。検討後には次年度に目指す保育について自らのアイデアを発表する「プロポーザル」を実施し、当園らしい保育を組み立てています。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」及びどろんこ会グループが理念としている「特色ある教育と保育 私たちが育てる6つの力」を日々の保育に落とし込むとともに年齢に合わせた経験、体験を計画に盛り込んでいます。</p> <p>利用者アンケートや園内研修を実施し、園運営の向上に反映させています</p> <p>どろんこ会グループとして毎年利用者アンケートを実施するとともに、変更点や改善点などの是非について話し合いながら、より良い園運営につなげる体制を整えています。アンケート結果は保護者に公開しており、意見に対する園の回答として今後の方針及び取り組みを伝え、信頼関係を深めています。園内研修では、衛生管理をはじめ感染症、危機管理、虐待、苦情、保護者対応など「保育運営マニュアル」に沿った学びの時間を設けており、業務の手順確認、共通認識を図ることで園運営の向上につなげています。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>異年齢で過ごす時間を十分に確保し、お互いが育ち合える環境設定を行っています</p> <p>0、1歳児クラス、2～5歳児クラスは壁を取り外して保育室を開放し自由に行き来できるようにするなど、異年齢での関わりを大切にしています。どろんこ会グループが掲げるビジョンでは、園を一つの「大きな家」として捉え、全園児に対して全職員が同じように関わることを基本姿勢としています。異年齢での活動でもその考え方を生かしながら、クラスの垣根を越えて子ども一人ひとりをしっかりと把握する態勢を整えています。異年齢での活動では、友だちを尊重する、憧れから真似てみるなど、お互いに刺激を受けて成長し合う姿が見られます。</p> <p>子どもが主体的に周囲へ関心を持ち、自ら考えて遊べるように環境設定を工夫しています</p> <p>0、1歳児クラスでは職員が子ども一人ひとりを見守り、園が子どもにとって安心できる場所であると認識してもらえるようにしているとともに、おもちゃなど周囲の物へ関心を広げ、興味や関心を引き出せるように支援しています。また、それぞれの保育室では「ゾーン保育」を取り入れ、クラスにこだわらずに好きな場所で好きなおもちゃで遊び込める環境づくりを行っています。職員は必要以上に口を出さないよう留意し、子ども同士の関わりの中かで自主性を育てられるよう「見守る保育」を実践しています。</p> <p>入学に向けて期待感が持てるように、5歳児は小学校を訪問して交流しています</p> <p>5歳児を対象に小学校体験を実施し、校舎内の探検、授業見学、1年生との交流の場などを設けて、期待感を持って入学できるように支援しています。係活動としては、給食時に5歳児クラスが2歳児クラスの配膳の手伝いをしています。3～5歳児クラスでは発表し合う時間を設けて自分の言葉で伝える練習をしています。毎日の雑巾がけは「仕事」と位置づけ、取り組むべき活動として1歳児クラスから行っています。身の回りの整理整頓も子どもが自らやるべきこととして捉え、習慣とする環境を整えて支援しています。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
<p>登園時は口頭でも保護者に子どもの体調を確認して変化を見逃さないよう努めています</p> <p>登園時には子どもの検温と観察を丁寧に行うとともに、保護者にも口頭で家庭での様子やいつもと違うことがないかを確認しています。保護者から伝達事項がある場合には「お迎え伝達ノート」に記入して担当職員に申し送りをするとともに、重要な内容については朝礼の場において共有しています。体調が優れない様子の子どものについては、いつもより検温や体調確認を増やすと同時に、保護者の意向を聞きながら室内での活動を変更したり牛乳をお茶に変えるなど、臨機応変に対応して無理なく保育を継続できるように配慮しています。</p> <p>一人ひとりの発達に合わせて生活習慣の習得を支援し、無理なく次の段階に進んでいます</p> <p>トイレトレーニングは子どもが興味を持ったタイミングで誘導できるよう、担当職員間で子どもの様子を共有しながら進めています。トイレが自立している子どももみんなで一緒にトイレに行く時間を設けているわけではなく、自分のタイミングでトイレに行くことを習慣化しています。離乳食については毎日の様子を調理職員と共有して無理なく食べられる量及び形状などを話し合いながら提供しています。保護者とは面談の中で園での様子と家庭の取り組み、意向についてすり合わせをしながら、園と足並みを揃えて保育を行っていただけるようにしています。</p> <p>降園時には「3分間対応」を導入して、保護者にその日の子どもの様子を伝えています</p> <p>降園時には子どものその日の様子について、3分間を目安にできる限り詳しく伝えられるように、一人ひとりの保護者と直接顔を合わせたコミュニケーションを大切にしています。お迎えが重なる時間には、保護者を待たせてしまうことや時間が十分に取れないことがあるものの、試行錯誤しながら保護者への細やかな対応に努めています。担任職員が降園時に対応できないこともあることから、重要な内容は昼礼での申し送りや伝達などを通して職員間で共有し、担任以外の職員であっても保護者にその日の様子を丁寧に伝えられる態勢を整えています。</p>			
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
<p>どろんこ会グループ独自の保育内容を提供し、子どもの健やかな育ちにつなげています</p> <p>座禅、雑巾がけ、リズム体操、生き物の世話、畑仕事、銭湯でお風呂の日、商店街ツアーなど、どろんこ会グループ独自の保育を提供することで、様々な実体験を通して成長する保育を目指しています。職員と一緒に毎朝床をきれいに掃除する雑巾がけを「仕事」と位置付け、自分たちが過ごす場所は自分たちの手で快適にすることの大切さを学んでいます。また、素足保育やリズム体操を取り入れながら体を動かし、感覚を育てる動きを日々繰り返し行うことで自分の体の仕組みを理解し、健康な体づくりにつながるよう支援しています。</p> <p>絵本の読み聞かせなどを通して、言葉への豊かな感覚が育つように支援しています</p> <p>毎日必ず絵本の読み聞かせを取り入れ、子どもたちに言葉への興味が湧くように支援しています。0、1歳児クラスは色、形、動物など、絵本を通しての学びを大切にしています。子どもが発する言葉を職員がキャッチし、代弁することで言葉への感覚が育つように支援しています。2～5歳児クラスでは朝の会や食事の前、活動の前後などに気持ちの切り替えを促し、集中することの大切さを伝えています。ルールやマナー、友だちとの関わり方を学ぶとともに、自ら考えて行動することを習慣化するためにも、読み聞かせを積極的に取り入れています。</p> <p>戸外活動を毎日取り入れ、子どもたちが伸び伸びと体を動かせる時間を設けています</p> <p>園庭はないものの、天気の良い日は毎日散歩や畑仕事を取り入れるなど、外の空気を吸いながら伸び伸びと体を動かせる時間を大切にしています。園の周りには大きな公園も多く、遊具の種類や歩く距離など用途に応じて選べる恵まれた環境を生かして、健康な体づくりに取り組んでいます。4歳児及び5歳児クラスでは、他県の系列園にある畑仕事を毎週日課に取り入れています。公園遊びか畑仕事を子どもに選んでもらうようにしており、選択肢があることで子どもの主体性を引き出すと同時に、戸外活動への意欲的な参加につなげています。</p>			

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事に関しては子どもたちが話し合いながら自分たちで決定する過程を大切にしています</p> <p>行事は毎年決められたことを繰り返すのではなく、職員一人ひとりが「子どもたちにとって何が必要か」を考えて、経験してもらいたい活動を盛り込んでいます。運動会、生活発表会は5歳児クラスを中心に自分たちがどのように進めていくのか、何を披露したいのかについて何度も話し合い、試行錯誤をしながら作り上げています。10月に行う運動会では4月から半年間の取り組みの成果やわが子の成長を感じてもらえる内容を盛り込みます。2月の生活発表で園における日々の生活の一部を見せることも、わが子の成長への理解を深める機会となっています。</p> <p>自分で自信を持って取り組んだものを披露するなど、やり遂げる達成感を味わっています</p> <p>行事では子どもたち自身がどのように取り組むのか、話し合いながら決定していけるように支援しています。普段の日課の中での成果も盛り込んでおり、運動会ではサーキット競技を披露しましたが、発達や年齢に合わせて跳び箱では高さ、縄跳びでは両足跳び、片足跳びなど、難易度を変えて無理なく取り組めるように工夫しています。3～5歳児クラスでは、友達との関わりの中で最後まで成し遂げる経験が自らを成長させる機会となっています。5歳児クラスは運動会で得意なものを披露する機会を設け、自信につなげていけるように支援しています。</p> <p>保護者には子どもたちの取り組みの過程を日々伝え、園の保育の理解につなげています</p> <p>子どもたちがどのような経緯で行事の内容を決めていったか、日々の活動が行事にどのように生きているかなど、保護者には行事の実施までの過程を丁寧に伝えていきます。当園の行事は大人主導で動くのではなく、子どもたちが準備できる範囲で子どもに委ね、手分けをして手伝ってもらうなど、子どもたちにも積極的に行事に関わる機会を大切にしています。また、当日の係などを子どもたちと一緒に楽しんでもらえる機会を設けるとともに、行事を土曜日に開催することで少しでも多くの保護者が参加できるように配慮しています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どももお互いが安心して過ごせる環境を設定しています</p> <p>園全体を「大きなひとつの家」と捉え、どこでも好きな場所を選んで、好きなように過ごせる環境を設定しています。延長保育の時間は時間帯によって全クラスが合同で過ごすことから、職員の目の届く場所で遊べるようにするなど、安全面にも配慮しています。また、静かに遊べる空間と活発に遊べる空間とに分けて、自分の好きな場所を選ぶこともできます。延長保育では毎日違う職員が勤務していますが、それぞれの職員の得意な遊びを子どもと一緒にすることで、延長保育の時間を楽しみにしている姿が見られます。</p> <p>子どもの人数などに応じて合同保育の時間を変更し楽しく過ごしています</p> <p>朝と夕方の時間は合同保育を行っており、クラスの垣根を超えた関わりがあります。その日の利用人数や子どもの年齢に応じて、臨機応変に合同保育にする時間を変更し、子どもたちが安全に楽しく過ごせる空間となるように配慮しています。全体で集まる時間には0歳児、1歳児クラスは柵などで仕切るなど、安全な場所を確保しています。保育室を移動することでいつもとは違うおもちゃ遊びやゲームができるようにしています。19時半以降も利用する子どもには希望によって夕食を提供しており、ゆったりとした雰囲気の中でお迎えを待っています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>バイキング形式の食事を採用し、楽しい雰囲気の中で食事をしています</p> <p>子どもたちが給食の時間を楽しみにできるように、「好きな時間に、好きな人と、好きな場所で、食べたいだけ食べる」をモットーにバイキング形式を採用しています。午前中の活動の終了時間が各クラスで違うため、年齢が高い子どもは遅い時間の給食になるものの、自分のお腹が空いたタイミングで食事を自分で盛り付け、食べきることを経験して自信につながるように支援しています。訪問調査時も5歳児クラスの子どもが2歳児クラスの給食の盛り付けを手伝っていましたが、できることは自分でするように促しながら見守る姿が見られました。</p> <p>毎月の給食会議でより良い献立のための話し合いを行い、次回に生かしています</p> <p>給食時、各クラスを調理職員や保育士が見回り、子どもたちとコミュニケーションを取りながら喫食状況を把握しています。味付けは食材の味を生かせるように薄味を基本とし、食材の大きさや硬さなどは年齢に合わせています。しかし献立によっては食材の味を生かすために敢えて大きめにカットし、咀嚼する力を付けるように配慮しています。毎月の給食会議では各クラスからの報告を受けて食育計画や畑活動などを話し合い、できるだけ献立に反映させています。給食には子どもたちが収穫した野菜を提供するなど、食事をより楽しめる工夫をしています。</p> <p>食に関する様々な学びや体験を提供し、子どもが興味を持てるように働きかけています</p> <p>子どもが食に関して学び、体験を通して興味や関心を引き出せるように年間の食育計画を立案しています。給食では子どもたちが育てた野菜を提供するのをはじめ、自分たちが作った味噌で味噌汁を作ります。0歳児クラスから野菜に触れ、野菜洗いや皮むきを手伝うなど、体験を多く取り入れることで子どもの感性を育てています。クッキング活動も今年度より本格的に再開し、塩こうじや出汁を味わい、梅シロップやしそシロップ、夏野菜カレーを作り、職員がさばいた魚を食べました。毎月のクッキング活動を通して、食の楽しさを知る体験を提供しています。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>保健計画を作成し、年間を通して季節に応じた健康管理や環境整備を行っています</p> <p>年度初めに保健計画を作成しており、季節に合わせた健康管理、保育室内の環境整備などを通して子どもの健康管理に取り組んでいます。看護師が中心となり、手洗いチェッカーを使用した手洗いの仕方及び鼻のかみ方、歯磨き、うがい指導などを行っています。さらに、日々の保育の中でも職員と一緒に取り組み、習慣化できるように働きかけています。「早寝早起き」「朝ごはんを食べよう」「体の仕組みを知ろう」など、絵本などを通して健康を意識することを促すとともに、自分の体について知ることの大切さを伝えています。</p> <p>与薬が必要な子どもについて、関係機関と連携を取りながら対応しています</p> <p>与薬が必要な子どもについては、与薬依頼票に沿って管理を行っています。与薬時には薬の内容、服薬時間などを複数の職員で確認しています。特別な配慮が必要な子どもについては、毎月、区の巡回指導を活用して保育中の様子を見てもらい、一人ひとりの発達や特性に合わせた支援、指示の出し方などについて確認を行っています。巡回指導の結果は職員間で共有し、指導計画にも落とし込んで日々の保育に生かしています。</p> <p>保護者には園での健康管理、呼吸確認の方法について入園時に説明しています</p> <p>乳幼児突然死症候群の予防については、呼吸、体位確認の間隔及び寝具、衣服など周辺環境の整備を始め、手を当てて発熱の有無を確認していることなどを入園時に保護者に説明しています。季節ごとに流行が予測される感染症については、毎月の「保健だより」に情報を提供しています。園内で感染症が発生した場合は、園内掲示やアプリを使用して保護者に伝えています。「保健だより」には免疫力を高める日々の習慣、裸足保育、薄着保育についての説明も明記されており、保護者と協力しながら子どもの丈夫な体作りを目指しています。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

急な延長保育にも受け入れ態勢を整えて、保護者の就労を支援しています

急な残業など当日の延長保育利用に備えて受け入れ体制を整えており、夕食は当日の16時までに予約があれば提供しています。延長保育の時間はアプリで24時間いつでも変更できるなど、利便性にも配慮しています。当日の利用であっても気兼ねなく延長保育を活用してもらえるように、保育士は気持ちの良い対応を心がけるなど、保護者の就労を支援し、負担軽減につながるよう受け入れ態勢を整えています。

保護者懇談会では、保護者同士が悩みなどを共有できる機会を設定しています

年2回実施している保護者懇談会では、子どもたちの成長報告を行うとともに園の運営に関する見通しを分かりやすく伝えています。また、それぞれのクラスの様子、子どもたちが今興味をもっていること、行事などについて意見を交わすなど、園と保護者が相互に理解を深める場ともなっています。また、保護者に園の姿勢について説明をした上で性教育を行っています。保護者同士も同年代の子どもを育てている仲間として、子どもの年齢に応じた悩みを共有するなど関係を深めています。

毎日の降園時には、保護者に子どもの様子を口頭でも伝えるようにしています

保護者にはアプリを通して2歳児クラスまでは毎日、食事量、排泄、睡眠をはじめ、園での様子について報告しています。その他のクラスの様子についてもアプリで写真と活動内容を情報発信するなどして日々の姿を伝えています。降園時には「3分間対応」を基本姿勢としており、子ども一人ひとりの具体的なエピソードを保護者に伝えるように努めています。お迎え時間が重なることで対応が難しい場面には声かけを意識するなど、保護者とのコミュニケーションの在り方を見直すことで、より信頼関係を深められるように努めています。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

散歩、銭湯の日、畑仕事など、地域資源を活用しながら様々な体験を重ねています

近隣に公園や自然が多い立地を生かし、天気の良い日には散歩などの戸外活動を楽しんでいます。毎月実施している遠足では、普段より遠くの公園に行って自然遊びを楽しみ、お弁当を食べるなど、クラスの垣根を越えて楽しんでいます。毎月の銭湯の日には、近隣の銭湯に出かけて地域の人たちと一緒に風呂に入って交流を楽しむとともに、公共の場所でのマナーについて学ぶ機会になっています。毎週、野菜を育てている隣県にある系列園の畑へ園バスで出かけ、野菜の世話をしながら系列園の子どもたちとも交流しています。

子育て支援事業などを実施して地域の人たちと交流できる場を確保しています

地域交流事業として、青空保育、高齢者施設との交流、商店街ツアー、銭湯の日などを実施し、子どもたちが地域の人と触れ合いながら成長していける機会としています。子育て支援事業は、園開放をはじめ子育て相談、着なくなった子ども服のリサイクル「勝手籠」の設置、さまざまな企画を通して地域の子育てを支える「ちぎんえっく」の活動など多彩です。園開放では「自然食堂」「自然学校」「芸術学校」を企画し、草木染めをはじめ園で人気のおやつや給食を一緒に作って食べたり、季節の飾りを製作するなど、毎月複数回実施しています。

調査対象

保育園を利用している54世帯を対象に調査を実施しました。在園児は68名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。

調査方法

アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

利用者総数	68
利用者家族総数(世帯)	54
共通評価項目による調査対象者数	54
共通評価項目による調査の有効回答者数	21
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	38.9

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が12人(57.1%)、「満足」が7人(33.3%)で「満足」以上の回答は合計19人(90.5%)でした。

自由意見には、「先生たちが子どもたちといつもしっかりと向き合ってください」「職員の方がちゃんと一人ひとりを気にかけて、目を配ってくれています」「いつも大変お世話になっており、感謝しかありません。ありがとうございます」「担任の先生以外でも名前を覚えてくれて、触れ合っているのがいいと思っています」「年上の子どもたちも良くしてくれて、子どもも嬉しそうです」「今の時代に合った育て方をしてくれていると思います」「自主性を重んじる方針に、好感が持てます」「働く保護者に優しいです」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」で100.0%、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか」で95.2%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	20	1	0	0
「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%でした。 自由意見には、「少し遠くへの散歩やクッキングなどで、役立っていると思います」「毎日いろいろな公園に連れて行ってきて、体力がついたと思います」「異年齢との触れ合いが多いです」「習い事(英語・水泳)ができます」「自分のことは自分でやります(家ではやりません)」「畑活動など、日頃体験できないようなことができるのが良いと思います」「先生と子どもたちで作った作品のクオリティが高いです」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	21	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「自宅ではできないようなボディペインティングや氷遊びなどを体験でき、良いと思います」「外遊びが多いです」「畑や稲刈り、銭湯など、他の保育園にはないようなイベントが良いと思います」「絵の具や粘土でベタベタになったり、家ではやりにくい事を経験させてくれます」「子どもたちが興味があること、楽しめることを柔軟に取り入れてくださっています」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	18	2	1	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が9.5%、「いいえ」が4.8%でした。 自由意見には、「食事の写真掲載やレシピを教えていただけるので参考になり、とても助かります」「おやつのおにぎりが、おなか为空かなそうで良いです」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	19	2	0	0
<p>「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が9.5%でした。 自由意見には、「園庭がない分、雨や暑い日など以外は、公園に連れて行っていただけるので良いです。遠いところまで行っていただけ、外でいろんな刺激を受けられるので、ありがたいと思っています」「幼児クラスでは畑活動が週に1回あり、やぎや鶏と接するなど、自然と触れ合う機会が多くあります」「毎日公園に行き、地域の方と触れ合ったり、四季を感じたりと楽しそうだと思います」などの声がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	16	2	0	3
<p>「はい」が76.2%、「どちらともいえない」が9.5%、「無回答・非該当」が14.3%でした。 自由意見には、「大変助かっています。ありがとうございます」などの声がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	14	7	0	0
<p>「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が33.3%でした。 自由意見には、「少し怖いと思うことがあります」などの声がありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	14	7	0	0
<p>「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が33.3%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	17	4	0	0
<p>「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が19.0%でした。 自由意見には、「小さなことでも話を聞いていただけて、気持ちが楽になります」「以前、トイレトレーニングをしていた時に、家のトイレでできた報告をしたら、すごく喜んでくれました」「朝夕の引き継ぎがきちんとなされていて、どの先生に聞いても、子どものことを把握しています」などの声がありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	18	3	0	0
<p>「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	17	4	0	0
<p>「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が19.0%でした。 自由意見には、「忙しい中、とても気持ちの良い対応をしてくれます」「いつもよくしていただいています」「どの先生も笑顔で、子どもと向き合ってください」「先生が柔軟です」などの声がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	17	3	0	1
<p>「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が14.3%、「無回答・非該当」が4.8%でした。 自由意見には、「登園後の37.5度以上の発熱については、必ず連絡をいただけますし、無理に至急のお迎えを要求せず、こちらの事情も考慮した伝え方をしてくださるので、大変助かっています」「保育中に呼び出しをされたことがないので、わかりません」などの声がありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	13	5	1	2
<p>「はい」が61.9%、「どちらともいえない」が23.8%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が9.5%でした。 自由意見には、「まだ子ども同士のトラブルに直面をしたことがないため、わかりません」などの声がありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	19	2	0	0
<p>「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が9.5%でした。 自由意見には、「子どもの気持ちに寄り添った保育がされていると思います」などの声がありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	19	2	0	0
<p>「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が9.5%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	20	1	0	0
<p>「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%でした。 自由意見には、「アプリで何をしたら教えてください」などの声がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	15	4	0	2
<p>「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が19.0%、「無回答・非該当」が9.5%でした。 自由意見には、「不満をお伝えしたことがないのでわかりませんが、質問に対しての回答は早いですし、きちんと引き継ぎもされています」「適切に対応をいただいています」「質問の状況になった事がまだありません」などの声がありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	9	6	3	3
<p>「はい」が42.9%、「どちらともいえない」が28.6%、「いいえ」が14.3%、「無回答・非該当」が14.3%でした。 自由意見には、「手段があることは理解していますが、特に園から言われたことはないと思います」などの声がありました。</p>				

株式会社 学研データサービス
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-11-8
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

●評価機関認証

東京都福祉サービス第三者評価機関認証
埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証
千葉県福祉サービス第三者評価機関認証
神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証
社会的養護関係施設第三者評価機関認証